

言語学、はじめの一步 (1)

このコーナーでは今まで、図書館の初歩的な利用方法や、図書館訪問記などを取り上げてきました。今回からはフルモデルチェンジして、かねてから私、藤井が関心を持っていた言語学に大胆にもスポットを当ててみたいと思います。それには私一人では到底無理ですので、心強い味方と共に連載してみたいと思います。その味方とは、...

本学の大学院を修了され、現在は大学や本学の併設校である京都外国語専門学校で教鞭を執っておられる入学直哉先生です。私(藤井)のQを、入学先生にAして頂く、一問一答形式でお届けしようと思います。では早速始めましょう。

- Q：先生は本学の大学院を修了されたそうですが、それはいつ頃でしょうか？
- A：それは個人情報ですから。(笑) まあ、90年代後半という事で。
- Q：専門学校でも教えておられるそうですが、どのような科目を担当されているのですか？
- A：京都外国語専門学校では「英語学概論」「TOEIC対策講座」「編入英語対策講座」などを担当しています。大学・短大とは違った雰囲気ですが、皆さん真剣に勉強していますよ。
- Q：一度お邪魔してみたい気がします。では、先生のご専門を教えてください。
- A：専門は英語学・英語史ですね。特に古英語(5世紀から11世紀頃の英語)を中心に、英語の歴史的变化が研究対象です。
- Q：古英語ですか。う～ん、懐かしいですね。私も本学英米語学科の出身ですから。私の記憶では古英語をOE、中英語をME、そして近代英語をModEと呼ぶのでしたよね？
- A：その通りです。因みに1900年以降の現代英語はPEと言います。
- Q：それでは、本稿の最大のテーマである、言語学とは何かという所から、出来るだけ簡単にお聞かせ願えますか？

A：言語学というのは自然言語、つまり我々人間が使っている言語の仕組みを音・形態・文法・意味などの面から科学的・実証的に明らかにしようという学問です。

Q：科学的・実証的というのがポイントですね。なるほど。では言語学は、いつ頃から始まった学問なのでしょう？

A：紀元前の古代ギリシアやインドなどではすでに言語の研究は行われていましたから、哲学や天文学などと並んで人類最古の学問の一つと言えます。

Q：では最後に、これから言語学の話を持ち下げて行こうと思うのですが、初めの一冊としておススメの参考文献をご紹介いただけませんか？

A：はい、それでは『言語学が好きになる本』町田健著、研究社出版(1999年)はいかがでしょうか？タイトルからも分かるようにガチガチの専門書ではありませんので、初心者でも言語学の基礎知識を楽しみながら学べる本だと思います。

Q：どうも有難うございました。これからも、どうぞよろしくお願いします。

今回取り上げた参考文献について

本書の請求記号は804-Macで、第一閲覧室に配架されています。言語に関する身近で素朴な疑問に答えて行く形式となっているので、興味深く読む事が出来ると思います。巻末の「本格的に挑戦したい人のために(読書ガイド)」では、単なる参考文献の列挙ではなくて、各文献の特徴を親切に解説しているので、どれを読むかの判断材料になるでしょう。大いに役立つ一冊だと思いますので、是非ご一読下さい。

にゅうがく なおや

(大阪大学非常勤講師・英語学・英語史)

ふじい たつや(司書・係長・アジア関係図書館)